令和元年度　第 6 回教育委員会定例会

議決事項

件　　名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第23号 　令和元年度垂水市特別支援教育支援員の解嘱並びに委嘱について	垂水市特別支援教育支援員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第 24 号 　令和元年度垂水市地区公民館主事の任命について	令和元年度垂水市地区公民館主事を教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

令和元年度　第 6 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出　　席　　者	
令和元年９月９日（火） 午前１０時００分 ↓ 午前１１時３０分 第２研修室	教　育　長　坂 元　裕 人 教 育 委 員　野 村　繼 治 教 育 委 員　田 原　正 人 教 育 委 員　葛 迫　幸 平 教 育 委 員　田之上　厚美	教育総務課長　紺 屋 昭 男 学校教育課長　明 石 浩 久 社会教育課長　野 嶋 正 人 国体推進課長　米 田 昭 嗣

会　議　要　旨

１　開　会

定刻、定足数に達しており、令和元年度第６回教育委員会定例会を開会した。

２　令和元年度第５回定例会会議録の承認

承認

３　議　事

報告第 23 号　令和元年度垂水市特別支援教育支援員の解嘱並びに委嘱について
報告第 24 号　令和元年度垂水市地区公民館主事の任命について

４　その他

なし

５　委員並びに教育長及び課長報告

６　閉　会

議事内容等

３　議　事	報告第23号 令和元年度垂水市特別支援教育支援員の解嘱並びに委嘱について
学校教育課長	令和元年度垂水市特別支援教育支援員の解嘱並びに委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。 （質疑なし）
	報告第24号
社会教育課長	令和元年度垂水市地区公民館主事の任命について 令和元年度垂水市地区公民館主事の任命について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。 （質疑なし）
４　その他	なし
５　委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員、教育長及び各課長の報告に入る。
野村委員	１．「錦江湾シーカヤック大会について」 ８月24日（土）第13回錦江湾シーカヤック大会に出席した。今年から会場が変わって、「道の駅たるみずはまびら」の「マリンパークたるみず」で開催された。 道の駅には、何回も足を運んでいたが、海岸に出たのは初めてで、その新鮮なロケーションに強い印象を受けた。 広範囲に砂浜が広がり、ほど良い距離に離岸提があり、マリンスポーツの場所としては、絶好のポジションであると思えた。 本部テントのあたりは、砂の層が高くなりすぎていて、海面の高さとは、かなりの段差ができてしまい、角度によっては競技の場面が見えないくらいであった。 競技内容については、例年どおりのシーカヤック競漕に始まったが、競漕後の競技は、「カヌーポートボール」という新競技であった。 大会実行委員会が考案したもので、その基となる形は、世界大会で実施されている「カヌーポロ」で、それを簡略化して、家族でも楽しめるような形に改変したものであるとのことだった。 ボールを奪い合う競技であるが、見ているうちにどんどん引き込まれていくような魅力ある競技種目で、来年度からさらに充実し、ヒートアップするのではないかと思えた。

	２．「子どもの育て方について」 　夏休みに県外から帰省していた娘と、「子どもの育て方」について、いろいろと話す機会があった。 　いじめ問題や、幼児虐待など暗いニュースが多い中で、いつも気になっていることだが、「子育てにとって大切なこと、何が大切であり、親はどう対処すべきであるのか。」ということを改めて考えてみた。 　娘の子どもは高校２年、小学５年、来春小学１年生になる３人である。子育てについては、簡単明瞭な解決法があるわけはないのだが、数年前一つの事例として、協和小の取組について、「なかなかよいものだなあ」と思ったことがあった。それは、「ノーメディアデー」の取組であった。現在も、市内の各学校で、何らかの形で計画・実施されているのではないかと思う。 　全ての家庭で、可能ではないかもしれないが、例えば週の一日だけを「ノーメディアデー」として、テレビ･ゲーム･漫画などをシャットして、子どもと親の会話や、一緒に工作したり、本を読んだり、絵を描いたり、庭の草取りや薬園作り、また、家族でどこかへ出かけたり、ゆっくり食事をしたりといった、いろいろな工夫ができると思う。 　ケースバイケースで一概には言えないが、娘にも、愛情の注ぎ方の大切さ、その工夫について、あれこれと話をした。 　要するに、子育てに関して教育の主人公は、学校や教師ではなく、まずは親が大事な責務を担っていると認識を持つ。また、子どもは親とは別の人格であり、その子の人格や存在を思いやること。親が、「こんな子どもに育ってほしい」と思うのであれば、コミュニケーションによって、お互いが深く理解しあえるような努力をすることだと思う。そのためには、子どもの話をよく聞いて、理解してやれる親になれたらと思える。 　その他、子どもの感性を大事にする。親の好みや希望、価値観を子どもに押し付けない。善悪の判断や正しい生活習慣については、子どもが嫌がっても、厳しくしっかり教える。子どもたちの年齢に応じて対処するべきだと専門の方の考え方の受売りではあるが、自ら実践したかのごとく、まことしやかに娘に伝えたのだった。
田原委員	１．「桂文枝の落語会について」 　８月27日（火)、桂文枝の落語会に行ってきた。今年の落語会も、会場いっぱいの観客で大盛況であった。 　観客のマナーも向上したのか、開演前にしっかりと着席し待っていて、話が始まってから駆け込む観客の姿はほとんどなかった。 　一番末席からの観覧であったが、声もよく聞こえて十分に楽しめ、さすがだなあと思ったことは、観客との間の取りかたや、笑わせるタイミングをよく知っているなあと感じるとともに、ごく自然な語り口など文枝師匠独特で、「新婚さんいらっしゃい」などテレビで見るそのままの姿がとても身近に感じられて、よかったなあと思った。おかげさまで大笑いでき、ストレス解消もできて心豊かな時間が過ごせてとても満足だった。 ２．「心はればれ！学習会について」

	今回いただいている資料で、「心はればれ！学習会」の感想を見ただけで、本当に心がはればれ！で夏休みを終わられたことが伺え、時期もよかったと思えた。参加した子どもの心で、「便利で助かりました。」とあり、おもしろい表現だなあと思った。このような取組が、不登校とか防ぐ、心の健康につながるよい取組だと思った。
葛迫委員	１.「伝統白薩摩研究会について」 ８月 25 日（日）、西郷南洲顕彰館で開催された、伝統白薩摩研究会に参加した。 「伝統白薩摩研究会」と、聞きなれない名称だが、この会は、昨年度 10 周年を迎え、白薩摩の敬称に資することを目的に、子どもたち向けの絵本『海を越えて～白薩摩物語』を製作し、県内各小学校に配布した。 本の内容は、第 12 代　沈壽官をモデルにした物語である。(鹿児島出身の岡田哲也氏がシナリオ、加藤久仁生氏がイラストで担当) 私は会の正式な会員ではないのだが、講演への参加は自由ということで時間の許す限り参加している。 今回の講演は、鹿児島県黎明館主任学芸専門員の深田恭子先生（垂水市牛根出身）による「明治期鹿児島の窯元たち～沈壽官窯・仙巌窯・慶田窯を中心に～」という演題だった。 内容については、明治期の鹿児島の窯元のあり様について、壽官窯を中心に説明をされていたが、講演者が現在、壽官窯の古い資料について研究されているということで、その資料の中から、「明治期には鹿児島市内の金生町、大黒町辺りに、多くの窯元や陶器店があったと記されている。」とのことから、この一帯で多くの陶器店があるということは、家庭で消費する陶器ではなく、旅人が、お土産などで買っていったのではないかと解釈された。 なぜ今、「白薩摩研究会」なのか。焼物の多様化や流通の発達によって白薩摩文化がどんどん途絶えてゆくその危機感、ふるさとの文化をなくしてはならないという危機感が感じられた。 ２.「青木野枝展について」 ９月１日（日)、「霧島アートの森」では、７月 26 日（日）～9 月 23 日（月･祝日）まで「青木野枝展」が開催されていたので、夏休みの最後の日だったが行ってみた。 この展覧会は、鉄を中心に構成され、霧島の自然を象徴する「霧」と「山」をテーマにした展覧会であった。 青木野枝氏は、1958 年東京生まれで、2000 年には芸術選奨文部大臣新人賞、2014 年には毎日芸術賞、2017 年には中原悌二賞など、数々の受賞歴がある。 今回の展覧会は４点の作品で構成されていて、特に「霧と山」と題された作品には、鉄を細長く切断し、会場いっぱい天井までの高さを使って、細長く切断した鉄と波板トタンを溶接でつなぎ合わせ、四つの大きな山を表現していた。また、鉄板を 10 センチ幅ほどのリング状に切断し、大小数多くの円形のリングを作り、その中から数点を円形のリングに曇りガラス

	や透明ガラスをはめ込み、そのガラスのない円形とガラスの入った円形を組み合わせて溶接し、大きな二つの山を会場に展示していた。 　壮大な６個の山に、子どもたちや大人の感じ方の違いに関係者も驚いているとのことだった。 　大人は具体的に、「山を鉄で表現している。」と感じるが、子どもたちは、ガラスがはめ込まれた鉄を見て、「霧だ」、「雲だ」、「雨だ」と表現し、多様な子どもたちの感受性に驚くと関係者は話された。 　夏休みに子ども連れの来館者が、町の喧騒を離れて、霧島の「静けさ」と、「涼」を求めてやってくるひと時を、多くの人に知ってもらいたいと改めて感じた。
田之上委員	１．「大隅地区女性管理職・教育委員研修会について」 　８月中旬に大隅地区の女性管理職の先生方と、教育委員の研修に参加した。垂水市からは、垂水小学校の校長先生と２人の参加であった。 　研修会では、大隅教育事務所の鮫島先生のご講演があり、学力向上の課題や学校経営、組織作りなどの講演内容であった。最後に、「見方や考え方を広げてみる。ちょっと変えてみると、また違う方向からものが見えるかもしれませんよ」と話された言葉が印象に残った。 ２．「垂水市社会福祉大会について」 　９月１日（日）、社会福祉大会に参加した。毎年福祉作文の発表があるため楽しみにしている。今年度は５８４点の応募があったそうで、その中から４点の最優秀賞の発表があった。いずれの作文も、経験したことを踏まえ、学んだこと、自分を成長させてくれたこと、今後将来に繋げていきたいことなどを、しっかりとした態度で発表している姿を見ていて、たのもしく思った。 　次の講演では、「医療法人　開南　池田診療所　理事長の宮田敬博　先生」による、南極観測隊の一員として、南極で体験されたことについて、「南極で学ぶ人間力」という演題で、講演があった。 　講演時間もたっぷりとあり、写真を交えて、ユーモアあふれる語り口で、あっという間に時間が経過し、もう少し聞きたいと思える大変楽しいひと時で、また何かの機会に聞いてみたいと思った。 ３．「鹿児島大学管弦楽団の演奏会について」 　先月、鹿児島大学管弦楽団の、「秋の音楽会」を垂水市で開催させていただいた。当初はＰＲ不足もあったことから、何名ぐらいの方々が、お越しいただけるか心配だったが、いろいろお誘いしたりして、思っていた以上にご来場いただいたので、ひと安心した。 　来場された方から、「すごくよい演奏会だった。」との声かけや、「どうして、もっとＰＲしないの」という声もいただき、ありがたいと思った。 　一週間、大隅地区の小学校を演奏で回っていたので、演奏曲目も小学生でもわかるような短い選曲がされていたので、来場した小学生の親子の方々にも、すごく親しみやすかったようであった。 　ふれあいタイムでは、楽器に実際に触れたりとか、音を出したりとかで

	きたので、子どもたちもとても楽しんでいたようだった。学生からは、「垂水の子どもたちは、とってもいい子たちだった。」という感想をもらった。アンコールの演奏は、垂水市では「行進曲　軍艦」だが、「ラデツキー行進曲」で演奏会が締めくくられた。たいへんよい演奏会であった。
教育長	１.「新学期を迎えて」 　夏休み期間、夏休みが終わり新学期を迎え、社会教育課においてもその間に、シーカヤック大会や落語会など大きなイベントが終わり、少ない人数の中で、よくやってくれたと思っている。教育委員会職員の協力や市職員の協力もあり、成功裏に終えられたことに感謝している。主催者側としては、参加された方々、観に来られた方々の笑顔や満足感が何よりも、励みであり、やりがいであったのではないかと思う。 　先ほど田原委員からもありました、「心はればれ！学習会」は２日間、延べ 40 人の子どもたちが参加した。それぞれ、参加した子どもたちは限られた時間内で終えたが、その中できちっと終えていない小学生が２名いたため、指導主事に付いてもらって、終わるまで時間延長した。やり終えた子どもたちは、「やったあ。」という声を出し、お礼を言って笑顔で帰っていった。この事業が、学習に対する困り感を持っている子どもたちの助けになれるよう、来年度も継続していきたいと思っている。 　９月２日（月）は２学期の始まりで、自殺者が増える時期でもあり、学校教育課長とも危惧していたが、幸い本市は何事もなく概ねよいスタートが切れたと思っている。 　だいぶ不登校も改善傾向にあり、よい形で２学期を迎えている。体育大会や運動会などあるが、子どもたちが何事もなくよい形で実りの秋の２学期を終えてほしいと願っている。 ２.「社会福祉大会について」 　子どもたちの福祉作文を聞いていて例年その内容はよいが、それが伝わるかどうかが大事であると思う。今年の作文の朗読では、それが伝わったと思う。ということは、学校職員の指導があったからではないかと思う。内容がきちんと相手に伝わるような伝え方が、小学生に限らず、中学生も高校生もできていたように思う。子どもたちのそれぞれの発達の段階がみえて、まさに「垂水の子どもたちが育っているなあ。」との清々しい思いで会場を後にすることだった。このようによいものは、地域の文化的な行事や、敬老会など地域の方々にも紹介して、元気や勇気を与えていけたら、子どもの心にも届き、よい教材、学習の場であろうかと思う。 ３．「野村委員への感謝について」 　野村先生は、３期８年４か月垂水市の教育委員として、様々な教育委員会の会や研修会、諸行事や学校訪問にご出席いただき、また、地区においても教育委員会連絡協議会の会長を歴任され、県においては同教育委員会連絡協議会の副会長を歴任されるなど、垂水市に限らず県の教育行政の振興に寄与していただいたと思っております。

	現職時代は、高校の熱血国語教師として、生徒の心に届く指導をされ、多くの子どもたちの夢を広げ進路の実現をしていただきました。 進学校の教頭や、校長を経験された方が本市では珍しく、また、垂水市に帰ってこられ、永年、教育委員としてお勤めいただいたことをありがたく思っております。 これまでの豊富な経験を基に、教育委員会では、ときには厳しい質問や指摘をされ、本音の部分では、垂水の子どもたちの成長を誰よりも望まれ、期待していただいたように思います。私どもにとっては怖い存在であり、強力な応援団でもあったと思っております。 学校に対して、専門的な立場からのご質問やご助言において、ほどよい野村先生が口火を切られると、そこには凛とした空気が流れ、緊張感も漂い、しかし、最後には熱いメッセージで締めくくられ、校長や教頭方にとっても、改善の示唆を与えていただいたと思っております。 また、教育委員の中でもリーダー的な存在で、多くのことを学ばせていただきました。教育界の先輩として私自身も多くのことを学ばせていただきました。 次回からは、野村先生がいらっしゃらないのは寂しい限りですが、先生のお気持ちを皆で引き継いで、これからも垂水市の教育行政を真摯に、誠実に推進していきたいと思っております。 今後もいろいろな場面でお会いすることあろうかと思いますが、これからも私どもの強力な応援団としてご教示いただけたらと思っております。ありがとうございました。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長	８月 11 日から９月 10 日までの主な行事等について報告。 併せて、10 月９日までの予定についてお知らせした。
６　閉　会	